

インターンシップ派遣対象留学生に対する 日本語指導と通常授業とのリンクの試み

百瀬みのり（大阪大学大学院院生，三重大学国際交流センター非常勤講師）

【キーワード】 インターンシップ派遣対象留学生（IS 生）対象の日本語指導，通常授業，リンク，「マナー・早口ことば」，作文課題

1. はじめに

本発表は，インターンシップ派遣対象留学生（IS 生）への日本語指導と，通常授業をリンク（連携）させる試みについて述べるものである。通常 IS 生に対する日本語指導は IS 生の企業派遣直前に臨時的に行われる場合が多く，その結果，IS 生に授業内容が定着しにくい，IS 生対象の日本語指導と通常授業とがリンクしにくい，などの問題が生じる場合が多い。

そこで本発表では，これらの問題点の解消のために行った以下の 3 つの試みについて報告する。

2. 試みについて

2-1. 【試み 1】「マナー・早口ことば」の唱和の実施

〔あ〕足を組まない。ゆらさない。〔い〕「今、お時間よろしいですか。」「う〕腕組み，ポケットは no。〔え〕笑顔で挨拶。〔お〕「お先に失礼いたします。」…これらのワ行までの標語を，授業前にクラスで唱和する。慣れたら早口ことばにし，授業前に行う口のウォーミングアップとして活用する。

2-2. 【試み 2】インターンシップ経験についての作文課題の実施

① IS 生に，勤労体験について作文課題を課す。その際に，インターンシップの時期に通常授業で履修済みの漢字，文字，文法項目（IS 生には，それらをリストアップしたプリント教材を予め配付する）を使うように指示する。（課題例：『みんなの日本語中級 I』の 1 課～2 課の漢字，単語と 3 課の文法項目を使って，インターンシップでの就労体験について作文を書きなさい。〕② 教師が作文を添削し IS 生に返却する。

2-3. 【試み 3】3 分スピーチとスキニング課題の実施

- ① 【試み 2】の作文を基に，IS 生に就労体験を 3 分スピーチする課題を課す。
- ② 非 IS 生に「話を聞いて（ ）に正しい語を書きなさい。」とスキニング課題を課す。
- ③ 上記②を基に非 IS 生にも，IS 生の就労体験に対する自分の意見を書く作文課題を課す（履修項目の使用などの指示や事後の教師の添削も【試み 2】と同様に行う）。

3. 結果

上記の【試み】を行った結果、

- ・ IS 生に対する日本語指導と通常授業との有効なリンク（連携）－A
 - ・ IS 生，非 IS 生双方に共通して学習態度の向上，クラスのリンク（連携）－B
- が見られた。

表 1 IS 生に対する日本語指導と通常授業の有効なリンク（連携）－A について

質問：「インターンシップ用の日本語授業といつもの授業に違いを感じましたか？」

	ア. ≪【試み】実施前≫ (%)	イ. ≪【試み】実施後≫ (%)
「はい。」	80	10
「いいえ。」	10	70
「どちらとも言えない。」	10	10
「分からない。」	0	10

※2019年5月下旬に2週間（春季インターンシップ）、同10月下旬に2週間（秋季インターンシップ）が行われた。【試み】は秋季インターンシップ終了後、IS生が通常授業に復帰した直後の2週間行った。ア.は前期テスト終了後（夏休み直前）の8月上旬に実施。イ.は後期テスト終了後（春休み直前）の2月中旬に実施。アンケートはIS生10名（ア.イ.共に春季、秋季両方のインターンシップに行った、同一のIS生）を対象に質問紙に答える形で得た回答である。

表 2 IS 生，非 IS 生双方に共通して学習態度の向上，クラスのリンク（連携）－B について

質問：「このクラスは連携していると思いますか？（ふだんも、このクラスの人と話をしたり、一緒に勉強したり、ごはんを食べたりしますか？）」

	ア. ≪【試み】実施前≫ (%)	イ. ≪【試み】実施後≫ (%)
「する。」	28	46
「しない。」	59	21
「どちらとも言えない。」	9	12
「分からない。」	3	18

※インターンシップ，【試み】，アンケートのア.とイ.の実施時期は表1と同じ。アンケートはIS生10名（ア.イ.共に春季、秋季両方のインターンシップに行った、同一のIS生），同一の非IS生22名を対象に質問紙に答える形で得た回答である。※表1，2共にアンケートの%の合計は小数点以下を切り捨てているために100ではない。

謝辞

アンケートに答えてくださった学生の皆さんに、心よりお礼申し上げます。